

# フォレストアートフェスティバル in ラダック 2024

## 森づくり × アート

会場：アートフォレスト, マトール インド、ラダック、マトール村

芸術祭公開日： 8/10 Fri. ・ 11 Sat.

公開制作： 7/20 Sat.~8/9 Thu.

主催：NPO 法人ウォールアートプロジェクト

共催：ラダック自治山間開発会議レー（ラダック自治政府）

取材のお問い合わせは事務局へ

info@wafes.net (おおくにあきこ / 浜尾和徳)

+91-9906733925(インド)

+81-9073215070 (日本)

## フォレストアートフェスティバルとは？

森は、気候変動で枯渇しがちな水脈を復活させ、  
建材や果実の収穫をもたらします。

アートの力を結集して苗木が成長し、森になっていく姿を見守る。  
フォレストアートフェスティバルは社会彫刻としての芸術祭です。



2023年6月、ラダック、マトー寺院の敷地に、チベット仏教の僧侶や村のみなさんと協力して6000本のヤナギと野バラの苗木を植えました。そこは今では「アートフォレスト in マトー（マトー芸術の森）」と名付けられ、若木が芽吹いています。木々が森になっていく様子を見守るために、アートの力を結集する社会彫刻がフォレストアートフェスティバルです。この芸術祭のためにアーティストとボランティア計32人がラダックにやってきます。また、ラダックを拠点に活躍するアーティスト9人もこのプロジェクトを成功に導くクルーとして、持てる力のすべてを注いでくれています。

主催 NPO 法人ウォールアートプロジェクト（東京都）

共催 ラダック自治山間開発会議レー（ラダック自治政府）

協賛 貝印株式会社 ツオモリリ文庫 ポーラスター株式会社 有限会社ブルーベア KOKUYO CAMLIN Pvt. Ltd.

My Tree サポートーズ

招聘アーティスト

### 浅井裕介（美術家）

浅井裕介は、生きとし生けるものたちがキャンバスの中で融合し、動物や植物のハイブリッドを思わせるモチーフで知られています。また、滞在制作をする土地の土を絵の具として使い、土に根ざして生きている私たちに根源的なイメージをもたらします。

インド、ラダックの芸術祭への参加に際し、浅井裕介が制作を試みているのが、彼自身が20年来、実現を夢見てきた世界最大級の地上絵です。それはラダックの大地でこそ実現可能な制作です。それはラダックの風雪により、消えゆく地上絵となります。しかしそれは人々の心に刻まれ、ラダックのアイコンとして親しまれる作品となります。

浅井裕介は、マトー村寺院の植樹地「フォレストアートサイト」を見守る存在として、以下の3つの地上絵に挑戦します。

- 1) マトー村コミュニティホールの屋上（30m×15m） いっぱいに水性ペンキで描く作品
- 2) サッカーコート上に設置する布に、ラダックの土を用いて描く同サイズの作品（30m×15m）
- 3) そして3つ目は、ラダックの大地を掘り進み、世界でも最大級と言える 200m～300m 級の地上絵。

これら3つの地上絵は、マトー寺院から鑑賞すると、植樹地を取り囲んでいることがわかります。動物と植物のハイブリッドのイマジナティブな生き物が、どれも植樹地の方を向き、木々の生長を励ましているかのようです。



招聘アーティスト

## 香川大介（画家）

目を瞑って描く線から生まれる山々や川など自然界の構成物。祈りから生まれたとされる様々な連続模様。

香川大介が描く絵には、有機的でマジカルな動力装置のような、不思議なパワーが宿っています。

日本の芸術祭でも、鄙びた神社や古い蔵など、祈りの場に展示されることの多い作家です。

ラダックのフォレストアートフェスティバルへの参加は、2023年のプロローグに引き続き二度目です。昨年は、7mの板絵を植樹地に展示しました。今年は、マトー寺院に住みながら描く許可を得て、祈りの場で、3本の絵巻物を仕上げ、マトー寺院に展示します。絵巻物は書籍化する予定です。



招聘アーティスト

## 富松篤（彫刻家）

木を削り、人物像を彫り出すことを続けてきた彫刻家が、ある日、浜に漂着した流木の自然の形に惹かれたのでした。森にあった木が、川に落ち、海に流れてゆくその過程で、果てしない時間とその木が流れの中で出会った偶然が創り上げた流木の造形。意志のないものとの出会いでした。

以来、彫刻家・富松篤は、浜に移り住み、流木を素材として組み合わせ、「命」を宿らせることに挑み始めました。

流木はまるで生き物を構成する血と筋肉のようです。

私たちは、命を屠り、いただき、命をつないでいることを忘れかけているけれど。

富松氏の流木作品は、私たちの奥底に燠火のようにくすぶる野生を呼び覚まします。

気高い「命」の姿に、森に還る日を夢想する美しい装置でもあります。

ラダックでは、マトー村に流れる川やアルチのダムで集めた流木を用い、威風堂々のヤクと、彼が流木拾いの途中で偶然にも出会えたアイベックスを制作しはじめています。

野生のヤクやアイベックスが住む場所には水が流れ、古来の地球と同じ豊かな循環があるとわれています。

マトーの「アートフェレスト」が、いつかそんな土地になるよう、それがラダックから世界にも広がっていくように、

ラダックの野生動物たちが木々の成長を見守ります。



招聘アーティスト

## ウィエダ兄弟（ワルリ画家）

先住民ワルリ族は、点や丸、三角というシンプルな線でこの世界の出来事を表現します。絵のバックは牛糞、描くのは米粉。竹を削った筆を用い、道具はすべて身の回りにあります。

超速で変化し、様々な緊張にさらされている今この時代にあって、自らを失わず、自分たち人間も自然の一部であり、自然がなければ当然のことながら私たちは生きていけないのだ、ということを静かに優しいタッチで伝えています。

ウィエダ兄弟は、2014年にラダック・プーガで壁画を描いたことをきっかけに、この世界の変化をラダックという土地を通してより深く感じるようになりました。

彼らは言います。「森と人間は一つの存在です」と。

「森がなければ、人間は存在できません。木が出す酸素や足元の土は、人間が生きる上でなくてはならないのです。意識しなくても当然のことのように私たちは融合して存在しています」

そんな彼らがマトー村の図書館1階のコミュニティホールに描いているのは、何千万年もの記憶を携えている木々の姿です。森の中で木々を見上げた時に誰もが感じる「希望」。図書館を訪れた子どもたちは、そのシンプルで美しい世界のあり方に気づいてくれることでしょう。



招聘アーティスト

### 花田千絵子（コンテンポラリーダンサー）

6歳から18歳までモダンバレエを黒田呆子に師事し、第4回北九州&アジア全国洋舞コンクールで文部大臣賞受賞している花田千絵子。学生時代は韓国・朝鮮伝統芸能グループノリパン（名古屋）にて杖鼓と伝統舞踊を学び、さらに雲南芸術学院にて少数民族舞踊を学んできています。

ラダックには、現在も祭祀や催事ごとに村の男女がこぞって踊るラダックダンスが残っており、花田は、現地で村人たちからそれらのダンス学ぶことを渡航の目的の一つとしています。地元のダンスを体感することはその精神性を理解し、深い交流を促します。ラダックと日本の文化を、ダンスという原初的な身体表現を通じて理解し合うことを目的としています。それらを学んだ彼女が、芸術祭では、コンテンポラリーダンスとして披露します。また、日本で醸成された身体表現を伝えるべく、現地の子どもたちへのワークショップも予定しています。



Performance video

[https://youtu.be/\\_j87Hm6i7gc](https://youtu.be/_j87Hm6i7gc)



招聘アーティスト

### RRyusuque（ハンドパン奏者）

南米各地を巡る演奏の旅から帰国し、高知県の清流、仁淀川近くに移住し、その地をインスピレーションの源としているパーカッショニストです。

現在もハンドパンを持ちながら、日本全国、世界で演奏活動を続けています。

彼が手がけるハンドパンは、リズムと音律のある楽器で、非常に繊細でありながら、奏でる人の人柄がそのまま反映されるような多様な表現力を持ちます。

ラダックには、かつての日本の御神楽のように、村ごとに楽団があり、祭祀の折には村人たちがパーカッションや笛を奏でる習慣があります。RRyusuque氏は、それら地元の楽団の響きや、雄大なヒマラヤの風景とのコラボレーションを目指し、ハンドパン持参で渡航します。ラダックの土地と彼のハンドパンが出会った時、どのような化学変化が起きるのでしょうか。ラダックの楽団とのコラボレーションも実現し、その成果となる曲が作曲され披露されます。その曲は、日本とラダックの交流の証として、今後も繰り返し演奏されていくことでしょう。



Performance video

<https://youtu.be/CqY1Ryy2xIM>



フォレストアートフェスティバル プロジェクトクルー

Chemat Dorjay @spindle\_art  
Stanzin Wangail @stany\_arts\_  
Tsering Youdol @lala.ladakh  
Jyamyang Namgyal @with\_manjushri  
Stanzin Norgyas @stanzinnorgyas  
Jigsmeth Stanzin @\_jigsmeth  
Stanzin Samphel @stanzinsamphel\_coa  
Kundan Gyatso @kundan\_gyatso  
Semnet Dorma @\_\_semnet\_\_



取材のお問い合わせは事務局へ  
info@wafes.net ( おおくにあきこ / 浜尾和徳 )  
+91-9906733925( インド )  
+81-9073215070 ( 日本 )

## アクセス

会場 マトー村 コミュニティホール脇の植樹地  
マトー ガバメントスクール 手前  
google map でのナビゲーションを参照にしてください。



どこからでも森づくりに参加する

## My Tree サポーター

気候変動の影響をダイレクトに受けているラダック地方。氷河が目に見えて後退し、地下水脈が変化し、代々続けていた遊牧や農業の生業が危機に直面しています。森づくりでCO2を削減し、地下水脈を育むプロジェクト。日本にいながら、世界のどこかにいながら参加できます。

■サポーター登録費：1本 5000円 (お名前のプレートを木の根元に設置します)

■費用の用途：捕植の苗木代、点滴灌漑システムの管理、木々のメンテナンスをする管理者の雇用費

■登録問い合わせ：info@wafes.net (浜尾和徳)

■芸術祭当日 8月10日、11日に会場にて My Tree にの根元に設置するプレートを自分で描くワークショップを開催します

参考資料  
Artists CV

### 浅井裕介

土、水、埃、小麦粉、テープ、ペンなど身近な素材を用い、あらゆる場所に奔放に絵を描き続ける。旅のチケットやコースターの裏に描かれた小さなドローイングから、室内を覆い尽くすような巨大壁画まで、作品を受け止める場所や環境にしなやかに呼応するように、その作品のスケールは様々だ。尽きることなく生み出される、植物、動物、人間、また動植物と人間のハイブリッドを思わせる神話的なイメージなどの根源的なモチーフが画面に隙間なく配置され、大きな生き物の中に入れ子状に小さな動植物が現れるなど、ミクロの中にマクロが存在する生態系を表しているようだ。

浅井の作品は、主に、各地で採取した土と水で描く「泥絵」シリーズ、アスファルト道路に用いられる熱溶着式路面標示シートをバーナーで焼き付けて描く「白線」シリーズ、マスキングテープに耐水性マーカーで描く「マスキングプラント」シリーズの三つに分類され、アトリエでの個人の制作にとどまらず、屋外の大規模なプロジェクトでは、友人やボランティアなど第三者との共同作業を交えながら制作する。変化を受け入れながら成長を楽しむように作られていくその過程は、都市に不足し必要とされる「野生」を植え付けていくかのごとくダイナミックに展開される。

### 主な個展

「浅井裕介展 星屑の子どもたち」(金津創作の森美術館、2024年)  
「浅井裕介—絵の種 土の旅」(箱根彫刻の森美術館、2015-2016年)  
「yamatane」(Rice University Art Gallery、ヒューストン、2014年)など。

### 主なグループ展

「A Spirit of Gift, A Place of Sharing」(ハンコック・シェーカー・ビレッジ、マサチューセッツ、2022年)  
「芸術在樵山—広東南海大地の芸術祭」(平沙島、広東、2022年)  
「生命の庭」(東京都庭園美術館、2020-2021年)「Shanghai Urban Space Art Season 2019」(上海)  
「Reborn-Art Festival 2019」(石巻)  
「武隆ランバ国際大地芸術祭 2019」(重慶)  
「横浜美術館 30周年記念 アートと人と、美術館」(横浜美術館、2019年)  
「生きとし生けるもの」(ヴァンジ彫刻庭園美術館、2016年)  
「飛生芸術祭」(北海道、2015-2019年)  
「瀬戸内国際芸術祭」(2013-2019年)  
「越後妻有アートトリエンナーレ 2015」  
「ウォールアートフェスティバル」(インド、猪苗代、2010-2019年)  
国内外のアートプロジェクトや展示に多数参加している。2019年、横浜文化賞 文化・芸術奨励賞を受賞。

### パブリックコレクション

愛知県美術館(愛知)、熊本市現代美術館(熊本)、大原美術館(岡山)、高松市美術館(香川)、つなぎ美術館(熊本)、東京都現代美術館(東京)、福岡アジア美術館(福岡)、横浜美術館(神奈川)、社会医療法人あさかホスピタル(福島)、クルックフィールズ(千葉) モンブラン(東京)、宮津大輔コレクション(日本)、ジャン・ピゴッツィ・コレクション(スイス)、タグチアートコレクション(日本)、高橋龍太郎コレクション(日本)

参考資料  
Artists CV

### 香川大介

福岡県福津市出身の画家。フランスでのスケートボードデザインや、絵画収入による日本徒歩縦断などを経て現在は栃木県日光市在住。絵画に限らずあらゆる創作の場として、築 100 年の古民家を自身で修復し 2017 年に生活・工房・店舗の複合スペース『吉見屋／香川大介美術館』を設立。形にとらわれない“創作”そのものを中心とした生活をおくっている。

### 近年の主な展覧会

- 2020 年 7 月 東京／調布市 展覧会『一陣の。』を開催（ツオモリリ文庫）
- 2020 年 11 月 福島／猪苗代町 ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2020 にて壁画制作
- 2021 年 1 月 栃木／宇都宮市 展覧会『あけの陽』を開催（ギャラリー絆和）
- 2021 年 2 月 栃木／宇都宮市 しもつかれ week2021 広告デザインに協力
- 2021 年 4～5 月 福岡／北九州市 展覧会『海峡わたる森』を開催（関門海峡ミュージアム）
- 2021 年 10 月 福島／猪苗代町 WAF ふくしま 2021 in 猪苗代にて WS（はじまりの美術館）
- 2021 年 12 月 栃木／日光市 企画展『壁展 with the wall』を開催（廻 奥の邸）
- 2021 年 12～2 月 神奈川／横浜市 NeWoman 横浜ショールームギャラリーにて公開制作・展示（横浜駅構内）
- 2022 年 2 月 栃木／日光市 しもつかれミュージアムにて屏風絵 3 点・サンドアートを制作
- 2022 年 3 月 栃木／小山市 炭火のいっぽめ 店内壁画を制作

Reference

Artists CV

### 富松篤

1985 年和歌山県生まれ。彫刻家。東京造形大学大学院造形研究科修了。木彫の人物像を中心に制作。2016 年宮城県石巻に制作拠点を移す。浜に漂着した流木の造形に惹かれ、流木を用いた作品を制作。石巻のキワマリ荘に所属。現在、牡鹿半島の漁村の小さな浜に暮らす。

### 個展

- 2024 富松篤個展「森に還る日」(ツォモリリ文庫/東京)
- 2023 富松篤 個展「想起するかたち」(GALVANIZE galley/宮城)
- 2021 富松篤 個展「漂着する存在の記憶、かたち」(GALVANIZE galley/宮城)
- 2011 Tomatsu Atsushi solo exhibition (Art Lab AKIBA/東京)

### グループ展

- 2022 芸術ハカセは見た！～芸術の四国遍路展 (四国4県巡回)
- 2021 第2回 芸術ハカセは見た！ in 徳島城博物館 (徳島城博物館/徳島)  
「手つかずの庭」 (石巻のキワマリ荘/宮城)
- 2019 未来へ「伝えるプロジェクト」-コトのアート研究所誕生-(全労済ホール/スペース・ゼロ/東京)
- 2018 MAKE OUR FUTURE PROJECT -アートの視点から震災について考える-(岡崎市美術館/愛知)
- 2017「パラダイス宮城」(Ego-Art Entertainment Gallery/東京)
- 2014 SICF15 (SPIRAL/東京)  
「Girly 展」(The Artcomplex Center of Tokyo B1 hall/東京)
- 2012 pimp studiodelivery art exhibition 2nd" LOVE ME TENDER!"  
(FEI ART MUSEUM YOKOHAMA/神奈川) 7人展" Day Dream Believer"(Art Lab TOKYO/東京)  
pimp studio delivery art exhibition 3rd" The pimp show(Art Lab AKIBA/東京)
- 2011 pimp studio opening exhibition(pimp studio/東京)

### 芸術祭

- 2023 信濃の国 原始感覚美術祭-2023 山のしずく、ささなみの水(木崎湖/長野)
- 2022 第5回かがわ・山なみ芸術祭 2022 (綾川町/香川)
- 2019 Reborn-Art Festival 2019 (石巻のキワマリ荘/宮城)
- 2017 Reborn-Art Festival 2017 (荻浜小学校/宮城) ☒☒アートフェア
- 2014 アートフェア東京 2014 (東京国際フォーラム/東京)
- 2013 アートフェア東京 2013 (東京国際フォーラム/東京)
- 2011「行商～ギャラリー・サーカス」(SPIRAL/東京)

Reference

Artists CV

**ウィエダ兄弟**

トゥシャル ウィエダ TUSHAR Vayeda 1987 インド、ガンジャード生まれ

学歴: 2014、3D アニメーションとマルチメディア ムンバイ大学 (アリーナアカデミー)

マユール ウィエダ MAYUR Vayeda 1992 インド、ガンジャード生まれ

学歴: 2016、ムンバイ大学、マーケティングマネジメント修士号

ウィエダ兄弟の言葉より

私たちの人生の旅は、静かなワルリ族の村で始まりました。ワルリ族の自然を愛する生活様式に浸りながら、美しく緑豊かなジャングル、雄大な山々、遊び心のある川に囲まれて育ちました。これらの環境は、宇宙の神秘的なあり方について考えるための多くの材料を与えてくれました。

成長期の私たちは、ほとんどの時間をジャングルの中を歩き回り、パチンコを手に狙いを定め、野生の新鮮な空気の中で想像力を育むことに費やしました。ジャングル、山、動物、ワルリの伝統、ワルリ文化に触発されて、私たちはワルリ画家になり、この世界の脈動する美しさを捉え、神秘的な驚異や喜び、悲しみのつかの間の瞬間を皆さんと共有しようと努めています。ワルリ画は、私たちワルリ族に伝わる芸術です。動物や人物、植物を生き生きと表現し、物語にしていきます。

葉の曲線に影が落ちる様子、花が咲き終わったときに折りたたまれる様子、豊穡から衰退への変化など、自然界の小さな存在からインスピレーションを得ています。自然の模様や幾何学的構造に私たちは魅了され続けています。

キャンバスにワルリ族の物語や神話と、自分達が見聞きしたことを織り交ぜ、時間と空間が作り出す幻想的な瞬間を描き続けています。同時代を生きる者同士、地球からもたらされる贈り物を味わいましょう。

[主な展覧会 / アートプロジェクト]

2024 グループ展「Waral Prakalp - The Guardians of Forest」(Spore ベルリン、ドイツ)

2024 出版「SEED」、TARABOOKS との新刊発表会 (チェンナイ、インド)

2023 グループ展「インド美術・建築・デザインビエンナーレ (IAADB)」(デリー)

2023 グループ展「Drawing Life」(Ojas Art gallery、デリー)

2023 グループ展「Devine Threads」(KAASH、バンガロール)

2023 グループ展「OUTSIDERS」(XXL Gallery、ムンバイ)

2023 個展「Eyes of the Forest」(Modesti Perdrille Gallery、ブリュッセル、ベルギー)

2023 芸術祭「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代」に参加 (福島)

2023 個展「Ancient Forest II」ツオモリリ文庫 (東京)

2023 「Forest of future」インドアートフェアのメインファサードデザイン (ニューデリー)

2023 個展「Kernels of Hope」インドアートフェア (Ojas Art Gallery、ニューデリー)

2023 「Pret A Manger India」(インド、ムンバイ)

2023 インドアートフェア アーティストインレジデンス (ニューデリー)

2023 芸術祭「WAYS OF WATER」ムンバイアーバンアートフェスティバル (ムンバイ)

2022 個展「Ancient Forest」ツオモリリ文庫 (東京)

2022 壁画制作「Valley of Elements」(スタートインディア財団、ロディアートディストリクト、デリー)

2022 グループ展「祖先の泉」(Modesti Perdrille Gallery、ブリュッセル、ベルギー)

2022 個展「ReGENERATION」(Artisans Art Center、ムンバイ)

2022 グループ展「THREE - Artists / Generations / Genres」(Ojas Art Gallery、デリー)

2021,22 芸術祭「Creation of the World &amp; Disappearing Spirits」(第10回アジア太平洋現代アートトリエンナーレ、オーストラリア)

2021 グループ展「Conference Of the Birds」Ojas Art gallery X The Yuva Foundation (デリー)

2021 グループ展「SHE THE DIVINE」(Ojas Art Gallery、デリー)

2021 「アートの力は、人、人生、そして世界をつなぐ」無印良品と IDEAM PARIS とのコラボレーション

2020 出版「THE DEEP」TARA BOOKS でのブックローンチ (チェンナイ)

2019 出版「TAILS TALE」TARABOOKS でのブックローンチ (チェンナイ)

2019 グループ展「SATRANGI - Art of Warli」(OJAS ART GALLERY、デリー)

2019 芸術祭「瀬戸内国際芸術祭 X 粟島アートレジデンシー」(香川)

2019 グループ展「INDIA BY THE BAY - HK WALLS X MERAKI」(TEAM WORKS X OJAS ART GALLERY、香港)

